第６回 福井市都市計画マスタープラン等策定委員会 議事録（要旨）

日　時 ： 令和6年12 月 24 日(火) 9:00～10:20
会　場 ： 福井市役所 別館5階 大講堂
出席者 ： 別紙のとおり
事務局 ： 福井市都市政策部都市計画課

【議事内容】

〇事務局

＜「(1) 地域別構想について」説明＞

〇委員長

地域別構想は 13 地域あるが、5つの方針別ごとに説明していただいた。

お気づきの点について、どこからでも構わないのでご意見をいただきたい。

今回はワークショップを開催しており、地域の方々から特に意見が多かったものを、赤字で示している。

〇副委員長

委員長がおっしゃられたように、地域でワークショップを行って、それを反映することで、より地域に根差した取り組みをしようという姿勢が出ているのがいいと思う。

また、それぞれの地域の 3 ページ目で中学生の声を特出しで挙げており、これから将来を担うこどもたちがどんなことを地域に期待しているのか、考えているのかということを見える化しているので、非常にいいと思う。

一方、前回の意見への対応の中で、都市計画マスタープランの中で書ききれない部分について、関連計画に譲るというような形になっており、例えば、先ほど、こどもの遊び場などについては、福井市こども未来計画(素案)で記載するということだったが、全体構想の 3 ページ、第 1 節のマスタープランの位置付けの中で、上位計画や関連計画と都市マスの関係性についての図において、それが示されていない。

どちらかというとハード計画を中心に記載するということで、都市交通戦略や景観、環境、住宅などを入れているというのは非常に理解するが、こども未来計画や地域福祉計画等も関連付けているということがこの計画上でも分かるような形にされた方がいいのではないか。

どこに書くか、または同じレベルで記載するかについては難しいところもあるが、その点についての工夫を期待したいのでご検討いただければ。

〇事務局

ご意見のとおり、関連する計画が明確に見えることは非常に重要と考えるので、どの部分に

記載するか、表現をどのようにするかも含め、検討する。

〇委員

ワークショップでは地域のまちづくり団体や自治会の方などが出席をして提言や要望など、皆さんそれぞれおっしゃったと思うが、ワークショップの内容をマスタープランに入れるだけで、それだけで終わってしまうのかということをまず 1 点お伺いしたい。

また、建築の規制をしていくという文章があるが、地域住民にとっては、具体的にどんな規制をしていくかというのが一番心配である。

いろいろ地域の方に聞くと、以前と比べるともう随分変わったが、農地や自身の土地でなかなか自分の住宅が建てられないという具体的な案件がたくさんある。

このような新たな建築の規制をしていくという言葉だけでいいのかどうか。

別にこれを否定しているわけではないが、上手な盛り込み方ができるといいと思う。

この 2 点を、要望も含めてお願いしたいと思う。

〇事務局

まず 1 点目の、それぞれの地区での要望に関する件についてであるが、今回のワークショップでは、地域別構想改定の参考にするため、20 年後を見据え、地域の中で実現可能な取り組みで、地域住民が主体的に取り組める内容について意見を伺った。

ご指摘のあったそれぞれの地区でのハード整備に関する要望については、各分野にまたがる内容でもあるが、今後ソフト面も含めた意見を、パブリックコメントを通じていただければと考えている。

次に、新たな建築活動の規制に関する件についてであるが、現在の記載内容は、主に土砂災害や急傾斜地の崩壊など、危険な区域における建築物に関連した規制を想定している。

これらの区域では、建築物の損壊が住民の生命や身体に重大な危害を及ぼすおそれがあるため、そのような区域での建築規制を盛り込んでいる。また、治山治水事業の一環として、新規建築に関して必要に応じて規制の検討を行うという趣旨で記載している。

〇委員

ワークショップの参加者には、福井市がこのマスタープランをどのように進めていくのかを報告するべきだと思うが、いかがか。

〇委員長

フィードバックについては、ご検討いただけるか。

〇事務局

フィードバックの方法について検討する。

〇委員

事前に資料には目を通させてもらった。

先ほどページ構成について、6 ページに分かれていて、というご説明をいただいたが、そういうことかと、今、説明を受けて分かった。

何か見やすい構成図と説明を別にあると、内容がもう少し頭に入ってくるかなと思うので、もう少し工夫をしていただけたらと思う。

〇委員長

今回は時間の都合もあったが、本来は地区ごとに説明すると分かりやすかったと思う。

この地区はこういう状況で、こういう意見が出て、それに対してどういう構想、或いは計画していくという流れがある。今回、土地利用、交通など、横に輪切りにしているので、分かりにくかったというのは私も感じているが、ご容赦いただきたい。

〇委員

これが正解になるか分からないが、最初のページに、構成についての説明があると、その頭で計画を読んでいけると思う。

〇委員

先ほど、説明の中でマスタープランを色々なまちづくりに活かしてほしいとおっしゃっていたかと思う。

今のご意見は、例えば、初めに、地域別構想はこういうページ構成になっており、このようにご覧くださいというような記載など、工夫をされた方がいいというご提案だと思う。

おそらく、副委員長がおっしゃったことも含めて、計画本体の方に含めるという部分もあるし、場合によってはマスタープランの使い方、手引きのようなものを作ることも考えられる。

例えばさっきおっしゃったような計画の関係や、構成内容を、計画本体の方に入れるというのもありえるし、場合によっては、計画本体とは別につけておくことで、随分見やすくなると思う。市民の方が使いやすくなる工夫をご検討いただきたい。

〇委員長

計画の構成などについて分かる手引きのようなものを作っていくということだが、いかがか。

〇事務局

我々も、ぜひ市民の方々に使っていただきたいと思っているので、印刷するまでに、どのように見やすくするか、工夫していきたい。

〇委員

まちづくりの中にこどももいて欲しいという思いがある。それをつなぐには地域住民が自主的にやることが一番だとは思うが、やはりきっかけづくりなどを市政の方でやっていただけると、やりやすいと思う。

私はこども専門部会に入っており、「こども未来条例（素案）」や「こども未来計画（素案）」に関わっているが、やはりこどもについては、まちづくりというよりも、どちらかというと生活に根差したような計画が近いと思う。

そうすると、こどもには、地域というものを打ち出していかないと、自分の住んでいる地域への愛情や、居て楽しいという思いは出てこないのではないかと思う。

また、こども目線の話をさせていただくと、こどもに向けた広報をプラスアルファでしてもらえると、自分の住んでいる地域を見てみようという気持ちになるのかなと思うので、先ほどのご意見のように、都市マスを見る手引きのようなものを、こどもバージョンでも作ってもらえると嬉しいと思う。

〇事務局

完成後に、どういった形でこどもたちに周知するか、工夫していきたい。

〇委員長

こどもでも興味を持てる計画というのも面白いかもしれない。地域別構想は本来そうあるべきではないかと思う。

〇委員

資料１の 50 ページ中ほどに自然災害の防止ということで、田んぼダムの整備と書いてある。

農業者からすると、大雨が降ったら田んぼに水を溜めるのかという形に取れる。農業者が犠牲になるということにしか見えない。そういう意味ではないとは思うが。

このあたり文言をもう少し考えていただきたい。

〇事務局

星印のついているものは、ワークショップで地域の方々からいただいたご意見から記載している部分になる。書き方等についてまた検討させていただく。

〇委員

勘違いしないような書き方でお願いしたい。

〇委員

ここに載っているもの以外にも、各ブロックのワークショップの中で、若い世代の方やさまざまな方から意見が出ていると思う。

もし可能であれば、各ブロックでどのような意見が出たのかを、知れるような仕組みがあると非常にありがたい。

例えば、いろんな人が計画を見る中で、地区の人たちがどんな意見を出していたのかを知ることができれば、取り組みも生まれやすくなるのではないかと思う。

〇事務局

ワークショップでいただいたご意見等について、どういう形でお見せできるか検討して、お伝えしたいと思っている。

〇オブザーバー

ハピラインふくい新駅に関して、前回の土地利用についてのご意見に対して、今回修正案として、「居住や生活サービス機能の維持を図ります」という表現になったというご説明があった。

この場所は地域別構想の市街地北部のエリアになると思う。ワークショップでどんな意見が出されたかは承知していないが、県の都市計画マスタープランでは、世帯分離に伴い世帯数は増加していくことを見込んでおり、そういった土地利用については、住宅系の開発の余地を少し残したような表現にしている。

したがって、特にこのような新駅ができるような場所については、そのようなことにも少し踏み込んだような表現にされてはどうか。

〇事務局

記載について、検討させていただきたい。

〇事務局

＜(2)「全体構想(地域拠点、実現化方策)について」説明＞

〇委員

例えば資料の 38 ページだが、ここまでに様々な拠点づくりの話が出てきて、38 ページの身近な生活空間づくりでまた地域拠点、広域生活拠点という言葉が出てくる。拠点が多く、様々なレベルで使われているため、少し整理しても良いと思う。

また、38 ページの「地域拠点の配置・連携イメージ」の黒の点線丸は地域別構想の地域に対応していると思うが、そういう記載がここにないとまずいという気がする。

全体構想と地域別構想との関係ということで、身近な生活空間づくりで出ている持続可能な地域を支える拠点づくりというのは、地域別構想に対応したものとして設定したと。黒の点線丸はそういうもので、各地域の皆さんの生活全体がこのように繋がっているというのを示して、概念の間の関係性は明示したほうがいいと思う。

〇事務局

本編の 38 ページについて、どのような形で記載をできるか、検討させていただきたい。

〇委員

ワークショップについて、開催時期が今年の 10 月ということで、ブロックごとに開催したとあるが、この各ブロックというのは、地域別構想の 13 地域のことなのかを確認したい。また、ワークショップに参加した人の募集方法についてもお伺いしたいというのが1点目。

2点目だが、3 月にパブリックコメントを実施し、それを反映させるという話だったと思うが、その募集方法や進め方について具体的にどうなるのかをお伺いしたい。市や県のホームページを時々拝見するが、パブリックコメントはあるものの、実際に意見を投稿する人は少ないのではないかと感じている。その点について、どういった方法で進められるのかを教えていただきたい。

また、実施が 3 月ということだが、マスタープランの策定にあたってその時期で大丈夫なのか。

3 点目が、最終的にこのマスタープランが市民にどのように周知されるのかについても知りたい。ホームページでの公開か、それとも冊子などで配布するのか、その方法についてお伺いしたい。

最後に、先ほどマスタープランの完成後、報告をするべきではないかというご提案があったと思うが、どのようにお考えなのか。

以上、4点お伺いしたい。

〇事務局

今回のワークショップは、委員がおっしゃる通り、地域別構想の 13 地域ごとで開催した。

募集方法についてだが、13 地域には、公民館地区 49 地区が含まれている。そこで、各地区からバランスよくご参加いただくことを想定し、各地区の公民館に参加者の推薦を依頼した。各地区から 2 名ずつご出席いただき、13 地域ごとにグループワークを実施した。

続いて、パブリックコメントについてだが、ホームページに掲載するのはもちろんのこと、市政広報にも掲載する予定である。また、市の施設にも資料を置く予定である。

さらに、ワークショップに参加していただいた方々には、パブリックコメントの時期にお知らせし、構想案をご覧いただいた上で再度ご意見をいただけるような形をとる予定である。

〇事務局

3 月でよいのかという点と、市民への周知方法について回答する。

3 月にパブリックコメントを実施し、来年度に改定案を都市計画審議会に諮り、議会にも提出する予定である。来年度の秋ごろを改定の目標としているため、3 月にパブリックコメントを行うスケジュールに問題はないと考えている。

その後の周知方法についてだが、ホームページでの公開を行う予定である。また、公民館などに資料を配布することも検討している。

フィードバックの方法としては、福井市で実施している出前講座なども活用していきたいと考える。

〇委員

第 4 章「都市計画マスタープランの実現に向けて」の中の「第 2 節　市民と行政の協働の都市づくり」のうち、2 番目の「市民・企業・行政の役割分担」について、ここに市民組織を入れたほうがいいのではないか。

建築士会や不動産鑑定士協会など、都市計画に関わる団体は多くあるが、市民組織を加えることで、こうした団体も包括的に含めることが可能になる。

マスタープランの実現に向けて、各関係団体にもそれぞれの役割を果たしてもらうというようにしたほうがいい。

〇事務局

市民、事業者、行政の役割分担の中での協働は非常に重要だと考えている。

ご意見にあった役割分担については、57 ページに記載されている市民の部分において、組織単位の取り組みとして市民団体などを含めて考慮している。個々の市民だけでなく、団体としての関わり方についても意識し、記載を行っている。

〇委員

マスタープランでは、タイトルに記載されなければ、その役割が表に出てこない。

例えば、52 ページには「市民」の後に「市民組織」といった分かりやすい表現を入れておいた方が行政にとって有益だと思う。協力者を多く作っていくほうが進めやすくなり、行政側にとってもいいと思う。

〇事務局

検討させていただく。

〇委員長

すべてに「市民・市民組織」と書くとかなり長くなるので、どこかで包括的に「市民は市民組

織を含む」などと記載しておいてもいいかもしれない。

〇委員

防災の観点から 1 点だけ述べたい。

福井市は県内の市町の中では、防災に関する動きが早いという印象を持っている。今はなくなったが、避難勧告や避難指示が比較的早く周知されており、その点は周辺からも評価されていると考えている。

一方で、動きが早すぎることへの懸念もある。動きが早すぎることで「狼少年」のように捉えられるリスクも考えられる。

防災において迅速さは素晴らしいことではあるが、そういったことを一般市民が永続的に認識できる形にするためには、やはり評価が大事である。これに関連して、PDCA サイクルを俯瞰的に管理する組織により、福井市の防災活動を正確に評価し、それを KPI として可視化することで、市民に分かりやすく伝えることができるのではないかと思う。

〇事務局

今述べられた進行管理や評価については、個別の施策などを踏まえながら、今後検討していく。

〇委員

少し気になる点がある。本文の 53 ページの「実現に向けた取り組み」の中で、新しい言葉が出てきている。MaaS や地域の DX といった言葉については、注釈を加えることで、こどもや高齢者にも理解しやすくなるのではないかと思う。特に 53 ページから 55 ページにかけての部分を気にしていただけると良いと思う。

〇事務局

全体構想の後ろのページに、それぞれの用語解説を追加する予定であり、そちらで対応したいと考えている。

〇委員長

私の方から評価について述べたい。

マスタープランと各種の計画との連動性について話があった。先ほど副委員長も指摘されたが、どこと繋がっているのか、どこで実現していくのかが分かるような連動した実績である。

このマスタープランをもとに、公共交通でどのような事業が進められたのかといったような意見が前々回あたりに出たと思う。そうした点も含めて、評価の中でご検討いただけるとありがたい。

〇委員長

ご意見出尽くしたということで、本日の議事を終了したい。

改定案につきましては、3 月にパブリックコメントを実施するということだが、今回いただいたご意見を反映するために、改定案の修正を検討することになると思う。

修正内容の確認については、委員長である私に一任させていただくということになると思うが、お認めいただけるか。

〇委員

〈賛同の声〉

〇委員長

賛同いただいたので、そうさせていただく。

事務局にお返しする。

〇事務局

今回のご意見の修正案については、委員長一任ということなので、野嶋委員長にご確認、ご了解いただく。その後、委員の皆様に郵送させていただくので、内容をご確認いただきたい。

これをもって、第 6 回福井市都市計画マスタープラン等策定委員会を終了させていただく。